

各位

フィデアホールディングス株式会社
株式会社 荘内銀行
株式会社 北都銀行

フィデアグループの平成 22 年 3 月期通期決算概要について

フィデアホールディングス株式会社（本社：仙台市、社長：里村 正治、以下「フィデアHD」）は、平成 22 年 3 月期通期業績等の概要と株式会社荘内銀行（本店：山形県鶴岡市、頭取：國井 英夫、以下「荘内銀行」）及び株式会社北都銀行（本店：秋田市、頭取：斉藤 永吉、以下「北都銀行」）の単体業績等につきまして、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. フィデアHD

(1) 平成 22 年 3 月期通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）連結業績

有価証券関係損益が計画を上回ったことや、経費や信用コストの削減に取り組んだことなどにより、通期連結業績は当初見込みを上回った。連結自己資本比率は 9.46%（速報値）。譲渡性預金を含む預金等の残高は 1 兆 9,448 億円、貸出金残高は 1 兆 4,066 億円、有価証券残高は 5,476 億円となり、グループの業容は拡大している。普通株式に係る期末配当は一株当たり 5 円。

			番号	フィデアHD
【連結】	損益	経常収益	(1)	38,300 百万円
		連結粗利益	(2)	29,625 百万円
		経常利益	(3)	4,470 百万円
		当期純利益	(4)	2,868 百万円
	自己資本比率 (速報値)	自己資本比率	(5)	9.46 %
		Tier I 比率	(6)	5.86 %
	主要勘定残高 (末残)	総資産	(7)	21,159 億円
		預金等（譲渡性預金を含む）	(8)	19,448 億円
		貸出金	(9)	14,066 億円
		有価証券	(10)	5,476 億円

（注）平成 21 年 10 月 1 日の設立に際し、荘内銀行を取得企業として企業結合会計を行っているため、フィデアHDの当連結会計期間（平成 21 年 4 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日まで）の連結経営成績は、取得企業である荘内銀行の当連結会計期間の連結経営成績を基礎に、北都銀行の平成 21 年 10 月 1 日から平成 22 年 3 月 31 日までの連結経営成績を連結したものとなる。

(2) 平成 23 年 3 月期連結業績予想

			第2四半期累計期間			通期		
			番号	前年同期比	同増減率	前期比	同増減率	
フィデアHD（連結）	経常収益	(11)	25,000 百万円	－ 百万円	－ %	50,000 百万円	11,699 百万円	30.5 %
	経常利益	(12)	3,000 百万円	－ 百万円	－ %	6,000 百万円	1,529 百万円	34.2 %
	当期（四半期）純利益	(13)	1,800 百万円	－ 百万円	－ %	3,700 百万円	831 百万円	29.0 %

普通株式の配当計画：一株当たり期末配当 5 円（年間 5 円）

（次ページへ）

2. 荘内銀行

(1) 平成 22 年 3 月期通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）単体業績

国債等債券の売却の減少などで前期比減収となったものの、有価証券の減損処理額や信用コストの減少及び経費の削減などにより業績回復。コア業務純益は資金利益の増加と経費削減の効果などにより前期比 31.1%増加の 29 億 89 百万円となった。

譲渡性預金を合わせた預金等残高は個人預金を中心に増加し、前期比 6.8%増加の 8,864 億円。貸出金は住宅ローンおよび地公体向け貸出を中心に増加し、前期比 4.0%増加の 7,209 億円と、決算期末として初めて 7,000 億円を突破。業容は引き続き順調に拡大。

金融再生法開示債権は金融円滑化法に積極的に対応した結果、前期比 58 億円減少、総与信に占める割合は 2.32%。自己資本比率は前期比 0.05 ポイント上昇して 8.93%（速報値）。

				荘内銀行			
			番号		前期	前期比	同増減率
【単体】	損益	経常収益	(14)	22,347 百万円	22,766 百万円	△ 418 百万円	△ 1.8 %
		業務純益	(15)	3,370 百万円	△ 1,379 百万円	4,749 百万円	- %
		コア業務純益*	(16)	2,989 百万円	2,279 百万円	709 百万円	31.1 %
		経常利益	(17)	1,823 百万円	△ 12,516 百万円	14,340 百万円	- %
		当期純利益	(18)	978 百万円	△ 7,536 百万円	8,515 百万円	- %
	不良債権	金融再生法開示債権額	(19)	17,229 百万円	23,051 百万円	△ 5,821 百万円	△ 25.2 %
		総与信に占める割合	(20)	2.32 %	3.23 %	△ 0.91 %	
		貸倒償却引当費用	(21)	1,361 百万円	2,963 百万円	△ 1,601 百万円	△ 54.0 %
	自己資本比率 (速報値)	自己資本比率	(22)	8.93 %	8.88 %	0.05 %	
		Tier I 比率	(23)	7.34 %	7.28 %	0.06 %	
	主要勘定残高 (末残)	預金等（含む譲渡性預金）	(24)	8,864 億円	8,294 億円	569 億円	6.8 %
		貸出金	(25)	7,209 億円	6,931 億円	278 億円	4.0 %
		有価証券	(26)	2,032 億円	1,602 億円	429 億円	26.8 %

*コア業務純益 = 業務純益 - 国債等債券損益（5勘定戻）+ 一般貸倒引当金純繰入額

(2) 平成 23 年 3 月期単体業績予想

業容の順調な拡大による資金利益と手数料収益の増加及び経費削減に引き続き取り組むことにより、増収増益を見込む。

			第2四半期累計期間			通期		
		番号		前年同期比	同増減率		前期比	同増減率
荘内銀行（単体）	経常収益	(27)	11,800 百万円	633 百万円	5.6 %	23,500 百万円	1,152 百万円	5.1 %
	経常利益	(28)	1,800 百万円	368 百万円	25.7 %	3,400 百万円	1,576 百万円	86.4 %
	当期（四半期）純利益	(29)	1,000 百万円	151 百万円	17.9 %	1,800 百万円	821 百万円	83.9 %

（次ページへ）

3. 北都銀行

(1) 平成 22 年 3 月期通期（平成 21 年 4 月 1 日～平成 22 年 3 月 31 日）単体業績

役務取引等収益の増加およびその他業務収益の増加により前期比増収となったほか、有価証券の減損処理額や信用コストの大幅減少及び経費の削減などにより業績は急回復。また、同様の要因により、コア業務純益は前期比 92.2%増加の 40 億 86 百万円となった。

譲渡性預金を合わせた預金等残高は法人預金を中心に増加し、前期比 2.7%増加の 1 兆 660 億円。

また、統合効果により預り資産関連の業容は大幅に伸張し、授信残高の年間伸び率は約 60%と東北地銀ナンバーワンとなった。貸出金は金融セクター向けの減少の影響が大きく、前期比 0.9%減少の 6,738 億円となった。

金融再生法開示債権は金融円滑化法に積極的に対応した結果前期比 67 億円減少、総与信に占める割合は 3.67%。自己資本比率は公的資金を活用した資本増強を実施したことから前期比 3.40 ポイント上昇して 11.31%（速報値）、また Tier I 比率は前期比 2.73 ポイント上昇して 7.28%（速報値）となり資本の質の向上につながった。

				北都銀行			
			番号		前期	前期比	同増減率
【単体】	損益	経常収益	(30)	24,630 百万円	23,560 百万円	1,069 百万円	4.5 %
		業務純益	(31)	4,121 百万円	△ 3,519 百万円	7,640 百万円	- %
		コア業務純益*	(32)	4,086 百万円	2,125 百万円	1,960 百万円	92.2 %
		経常利益	(33)	1,628 百万円	△ 19,247 百万円	20,875 百万円	- %
		当期純利益	(34)	1,033 百万円	△ 17,978 百万円	19,011 百万円	- %
	不良債権	金融再生法開示債権額	(35)	25,238 百万円	32,025 百万円	△ 6,787 百万円	△ 21.1 %
		総与信に占める割合	(36)	3.67 %	4.61 %	△ 0.94 %	
		貸倒償却引当費用	(37)	3,084 百万円	6,923 百万円	△ 3,839 百万円	△ 55.4 %
	自己資本比率 (速報値)	自己資本比率	(38)	11.31 %	7.91 %	3.40 %	
		Tier I 比率	(39)	7.28 %	4.55 %	2.73 %	
	主要勘定残高 (末残)	預金等（含む譲渡性預金）	(40)	10,660 億円	10,371 億円	289 億円	2.7 %
		貸出金	(41)	6,738 億円	6,800 億円	△ 62 億円	△ 0.9 %
		有価証券	(42)	3,641 億円	2,749 億円	891 億円	32.4 %

*コア業務純益 = 業務純益 - 国債等債券損益（5勘定戻）+ 一般貸倒引当金純繰入額

(2) 平成 23 年 3 月期単体業績予想

有価証券関連収益の減少等により減収となるものの、業容の順調な拡大による資金利益の増加や経費削減効果により通期増益を見込む。

			第2四半期累計期間			通期		
		番号		前年同期比	同増減率		前期比	同増減率
北都銀行（単体）	経常収益	(43)	11,500 百万円	△ 625 百万円	△ 5.1 %	23,000 百万円	△ 1,630 百万円	△ 6.6 %
	経常利益	(44)	1,000 百万円	△ 256 百万円	△ 20.4 %	2,000 百万円	371 百万円	22.8 %
	当期（四半期）純利益	(45)	600 百万円	△ 158 百万円	△ 20.8 %	1,200 百万円	166 百万円	16.1 %

以 上

【本件に関するお問い合わせ先（報道関係）】

フィデアホールディングス IRグループ 大石 TEL：018-833-4211
佐藤 TEL：023-626-9006